■2012 年度ボバース小児上級講習会が開催される(東京)

2012年12月22日-26日の5日間、東京の心身障害児総合医療療育センターで、ボバース小児上級講習会が「姿勢制御に対する発達促通」をテーマに紀伊克昌先生により開催されました。受講生は関東を中心に17名で、講義・実技・治療実習・ワークショップなど最新の情報に精力的に取り組まれておりました。

概要

テーマ: 姿勢制御に対する発達促通

講師:紀伊克昌先生

アシスタント:金子断行

期間: 2012年12月22日-26日

場所:心身障害児総合医療療育センター

プログラムは以下のように濃密なプログラムでした。

	9:00	00 10:30		10:40		12:00		13:00 14	4:10		14:20 15:30			15:40	17:00	
012年			10:10		5 BY 14 - 2 7 10 - 5 16 1		写真撮影	講義:臨床推論			治療実習			デモン	ストレーション①	クリニカル
10/22			講義: 辺	T#0)脳性まひ児病像と セラピスト課題	題			休	糖			休憩			リーズニング
(月)					金子(紀伊)			紀伊(金子)			紀伊·金子			紀	伊(金子)	討論
	ワークショップ1				ワークショップ2			ワークショップ3			デモンストレーション②	クリニカル		講義・実技		
10/23				休憩			昼休み		休		リーズニング		休憩			
(火)	紀伊(金子) 講義·実技				金子(紀伊	ł)		紀伊(金子)			金子(紀伊)	討論			紀伊(金子))
					ワークショップ4			ワークショップ5			ワークショップ6			デモン	ストレーション①	クリニカル
10/24				休憩			昼休み			水憩			休憩			リーズニング
(水)	紀伊(金子) 講義·実技				紀伊(金子)			金子(紀伊)			金子(紀伊)			紀	伊(金子)	討論
					デモンストレーション②	クリニカル		ワークショップフ			ワークショップ8			講義	•実技	
10/25				休憩		リーズニング	リーズニング 昼休み		休	水憩	Ł		休憩	1		
(木)	紀伊(金子)				金子(紀伊) 討論			紀伊(金子)			金子(紀伊)			紀伊(金子)		
	講義・実技			講義·実技		昼休み	講義•実技			治療実習		15:3		:00~16:30		
10/26				休憩					休	休憩	質			疑応答 修了式		
(金)	紀伊(金子)			金子(紀伊)				紀伊(金子)			紀伊·金子		紀伊(金子)			

月曜日朝一番の受講生紹介は、4 グループに分かれて各人の、①今までボバースを実践して肯定的であったこと ②バース実践して難しかったこと ③このコースでの自分の達成課題 を模造紙にグループ毎に書いて発表しました。またグループ名も決めました。この模造紙は5日間全日張り出されており、「自分の達成した課題を赤線で消すように」紀伊先生は案内されました。









各グループによる個々の課題は上記のように張り出されました。

「体験学習」が今回の柱であり、受講生の身体を、よりセラピーのできる身体に変えることを 目的に二足直立を中心に実技が展開されました。

1日目は、「二足直立」に対するフィーリング、2日目は「ストップスタンディング」における 求心性システム、3日目は「二足直立」での個別性の観察と分析、4日目は「二足直立でのコア コントロール」の体験、5日目は「コアを維持しながらの Posture to posture」と実技がすべて 5日間の流れで行われました。



Stop standing によりモデルの身体が促通され、身体図式が変化します。



個々の二足直立を観察・分析しています。



コアを自己体験しています。



デモンストレーションの後は、グループ毎にまず話し合い、その後全員で「主要な問題点」と「治療推論」を討論して白板でまとめました。



このように討論をまとめていく作業を全員で行います。



ワークショップでは、各発表グループがプレゼンテーション を終えたのち、「治療して新たに発見したこと」を発表しまし た。



5 日間ですべての受講生は身体も脳も促通され、自分の身体に気づくことができるようになりました。



また、シニアインストラクターの新保先生をはじめ、東京 の多くのインストラクターがアシスタントして参加されま した。



最終日のまとめの時間には、グループ毎に受講生が何を達成できたかを発表し、自分たちの進歩を確認しあいました。

今回は、今までの上級コースのなかでもかなり深い内容であると同時に受講生の達成課題が明確にされたコースでありました。ぜひ、今後も多く会員の方たちに上級コースに参加をしていただきたいとの紀伊先生の願いでもあります。(報告:心身障害児総合医療療育センター 金子断行)